

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 6月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600315
法人名	医療法人社団 長啓会
事業所名	グループホーム 松葉の家
所在地 (電話番号)	袋井市大野2730-4 (0538-30-0777)

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年 3月14日

【情報提供票より】(平成21年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 9月14日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 16人/ 非常勤2人/ 常勤換算12.6人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	4階建ての2階～4階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥40,500	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	¥200,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食		昼食
	夕食		おやつ
または1日当たり ¥1,500			

(4) 利用者の概要(平成21年2月22日現在)

利用者人数	22 名	男性	10 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.3 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浅羽医院、たもつ歯科、岩本外科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧浅羽町の150号線に面した田園地域の中にある4階建てのホームである。2～4階の各フロアを1ユニットとした3ユニットで、1階部分は同じ法人が運営する通所介護があり利用者の交流も盛んに行われている。開設から7年目を迎え当初からの管理者である館長の下「その人らしく自己決定の支援」「介護される介護」を理念とし、職員全体で立ち帰る場所として共有され、ホーム運営の大きな推進力となっている。またこの7年、地道に地域に参加し、またホームへ招くなどして積み上げてきた地域との関係が確実に深まった。継続の中で地域住民からの理解へと繋がり、同時に利用者の地域生活が実現した。地域密着型として更なる展開が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題はホーム全体の課題として共有され、出来る事から確実に取り組んでいる。その一例として運営推進会議の定期開催に繋がり、会議での意見が反映された事例も生まれてきている。地域密着型としての理念については地域生活の実践はできているので早急に明示されることが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員への周知と意見の吸い上げまでには至っておらず、各ユニット主任の意見を基に管理者である館長が作成している。前回の外部評価結果については会議を通じ全職員に報告、課題の検討が行われているので、より効果的な調査にするためにも次回は全体で取り組み、より多くの意見が反映されることを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回調査時点では不定期開催であった運営推進会議も2ヶ月に一回の定期開催が定着してきている。外部評価結果の報告や説明、認知症や成年後見制度の勉強会、災害時の対応などの検討が行われている。家族の提案から回覧板の活用につながったり、地域包括支援センターを通じ傾聴ボランティアの来訪につながるなど会議での意見がホームの運営に活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や来所時を活用し、家族の意見や思いを聞き出す機会としているが、家族が意見を表明できる場として定着し十分に機能して運営に反映しているとは言いがたい。目安箱の設置も検討しているので、より効果的に活用されるような工夫を期待したい。またより家族の意見を引き出すためにもホームのことを良く知ってもらう必要もあり、そのためにも検討中のホーム便りの早期実現が待ち望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、利用者や職員が日常的に行事へ参加し、公民館行事にも招待されている。また、併設のデイサービスと歩調を合わせてのボランティア受け入れや小・中学生の職業体験の場としても活用され、積極的に交流を深めている。利用者にとっては地域生活を実感できる機会であると同時に地域住民へホームの理解が浸透しつつある。管理者の構想である「災害時、ホームとして地域に出来る事」への取り組みが実現すれば、地域との関係がいつそう深まることと期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者への処遇に対する理念は「介護される介護」「自己決定の支援」として明確に掲げられているものの、地域密着型としての理念は明記されておらず地域の中で利用者の暮らしをどのように支えていくのが理念として表現するまでには至っていない。	○	地域との交流の機会を持ち、利用者にとって地域で生活をしているという実感が得られるよう具体的取り組みはされているので、その思いを職員全員で確認し理念として作り上げ明示されることが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議やホーム独自の勉強会を通じ理念の振り返りが出来るよう話し合いの機会が持たれており、全職員に共有されている。日々の生活の場面においても利用者に接する際の基本の考え方となっており、立ち帰るところとして支援にも反映されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入しており、利用者や職員が奉仕作業やお祭り等の町内会行事に参加し、公民館での発表会などの行事にも招待されている。また、併設のデイサービスと歩調を合わせて、ボランティアを受け入れたり、小・中学生の職業体験の場としても活用され、積極的に交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は理解されており、評価結果は会議などの場で全職員に伝達され、日頃のケアの振り返りや今後に向けた検討が行われている。肩肘張らずに現状を踏まえた上で例え一つであっても確実に課題が達成できるよう取り組んでいる。	○	外部評価の結果については全職員で共有され改善へとつながるように具体的な取り組みが行われているので、ぜひ自己評価についても全職員に項目の理解を得られるように働きかけ、それぞれの意見が反映されるよう期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の定期開催が定着してきている。外部評価結果の報告や説明、認知症や成年後見制度の勉強会、災害時の対応などの検討が行われている。家族の提案から回覧板の活用につながったり、地域包括支援センターを通じ傾聴ボランティアの来訪につながるなどの会議での意見が活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関しての相談や報告を通じ、市の担当者との関係を築いている。また市の企画による他ホームの見学や交流、意見交換の場などにも積極的に参加しサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況については家族の来所時に、また来所の少ない家族へは定期的に文書で報告をしているほか、受診結果等については随時報告を行っている。職員の異動等については特別に連絡はしていない。	○	来所時での報告のほかに、文書や写真等で生活の状況がわかるものを定期的に家族の元に届くような取り組みを期待したい。また、ホーム全体の活動状況や職員の入退職のわかるホーム便りの発行も効果的であり検討しているので今後活用されていくことが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではホームの運営に対する家族の意見や思いを引き出し、検討する場として活用している。またホーム内に苦情相談窓口を明記したポスターを掲示し意見を言える場があることの周知をしている。	○	運営推進会議に出席できない家族や、会議の場や面会時では直接職員に伝えるににくいこともあるので、より多くの意見や要望が集められ運営に反映されるシステムの構築が望まれる。方策の一つとして意見箱の設置を検討しているので早急に設置されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の都合ではなく利用者のことを考え、異動は最小限に努めている。また、やむを得ない事情による異動や離職に備え、日頃から職員や利用者のユニット間の交流も意識的に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に独自の研修システムがあり、職員の経験や習熟度に応じて段階的に研修を受けることができている。外部研修には勤務の都合上参加できる機会は少ないが、参加者が月1回の会議の場を活用し報告研修が随時行われ、知識や情報の共有がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に複数のグループホームがあるため、館長会議や研修の機会を通じ交流が行われている。市が主催の連絡会にも参加し、他施設の見学などが行われ、今後の情報交換や交流につなげていく方向で検討が始まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験的利用は行っていないが、入居前に職員が複数回訪問し面談を繰り返すことによって、利用者本人の特性を把握すると同時に職員との関係作りを行い、安心かつスムーズな入居へと繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護される介護」を理念の一つに掲げている。利用者が主体となってそれぞれが生活の中に役割をもてるように支援されている。また職員が利用者から家事や生活の知恵を覚えてもらう場面も多々あり共に生活をしている者同士支えあう関係作りが行われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者から発せられた言葉だけではなく、その表情や行動等からも利用者の真の思いを感じ取り、それに沿える様にと考えながら日々の支援にあたっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入居時のアセスメントを基に個別に作成しているが、作成過程で家族との話し合いの機会が設けられておらず、作成後の説明・同意となっている。	○	家族の都合や支援の兼ね合いもあり、計画について話し合いの時間を設ける事は容易ではないと思われるが、より本人・家族の意向に沿った計画に近づけ、共に足並みを揃えて利用者に関わっていく為にも作成過程で何らかの形で話し合いの機会を設けて頂く事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは基本的に6か月に1度行っており、その他利用者の状態に変化の見られた際には随時の見直しも行っている。毎月のユニット会議にて、モニタリングを行い現状について検討しているが経過が分かる様な記録や家族・本人等との話し合いが行われていない。	○	日々の経過を定期的にモニタリングし、点検・評価を行った上で次の介護計画へと繋げるといった、一連の流れの中で、見直しの実施状況を記録に残す事や本人・家族の意見を表明出来る様な、仕組み作りを再度御検討頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診は協力医・かかりつけ医のどちらの場合にも家族に代わり職員が責任を持って付き添っている。受診後の結果や心配な点等は随時家族に報告し利用者の健康状態について共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医での受診を行っているが、病状によりかかりつけ医での受診を行う利用者もいる。2週間に1度の受診や3か月に1度の健康診断等、手厚い健康管理体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族との話し合いの中で、共通の意向があればそれに沿える様、医師と連携しながら出来る限りの対応を行う方針である。過去にも2件の看取りを行っており、その際にも医師と連携しながら、ホームとしても職員を厚く配置する等して対応してきた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に「敬意」を感じる言葉使いをする様日々伝えている。調査当日も職員はゆったりと温かい言葉を利用者にかけていた。記録等については個人毎に分け、ロッカーで保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の1つに「自己決定の支援」を掲げており、職員は出来る限り利用者本人のペースに合わせてようと支援している。起床時間・食事の時間等については本人に意向を確認し、個々のタイミングに合わせた時間で対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の新鮮な地元野菜を味わってもらいたいとの思いから、ひと月程前より献立決めや食材の調達を利用者と共に行う方法に変更し、とても好評である。調理から片付けに至るまで利用者が積極的に参加し活躍している。煮物の味付けや上手に味が染みる野菜の切り方などを、料理に不慣れな男性職員が利用者から教わることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する日・時間に入浴して頂ける様、体制が整えられており、利用者の清潔維持に繋がっている。毎日入浴する利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日々の利用者とのやりとりの中から生活歴や得意とする事等を引き出し、それぞれの活躍の場を作り出している。ハーモニカが得意な利用者がハーモニカを吹き、その音色に合わせて皆で歌を唄ったり、食事の準備や掃除等の場面でも得意な利用者が自発的に参加し、それが生きがいへと繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物の機会の他にも花見や地域の祭りへ出かけたりと利用者の外出の機会は多く用意されている。また、利用者から希望があったタイミングに合わせてなるべく出掛けられる様、職員は配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が目配り・気配りにより、日中施錠を行わない支援を実現している。外へ出ようとする利用者がいても、無理に引き留めようとはせず、職員と一緒に外出し利用者が納得するまで付き添う様になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの防災訓練の実施、地域防災訓練への参加を行っている。職員が応急処置の訓練に参加する等緊急時に対応する為の意識は高い。しかし、災害時の対応について運営推進会議等で話し合われているものの、具体的な地域との協力体制を築くまでにはいたっていない。	○	災害時のホーム内の避難経路やADLの低下した利用者の避難方法等の確定、また管理者が現在考えている、いざ災害が起きた時、地域の人々に助けてもらう事ではなくホームとして何か出来る事はないかといった事柄についても、今後話し合いを重ね、早期に地域の方々と具体的方法を共有する段階にまで高めていく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は主食・副食に分け、個別に毎食記録している。水分量も毎食時と10時・15時の摂取記録が数値で明確に残されている。量の確保が出来ていない場合には、職員が声掛けをして勧めている。系列の施設の栄養士や主治医にも相談し、アドバイスも受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は鉢植えや造花で季節感を採り入れ、壁には習字・絵画・折り紙など利用者の作品が飾られていた。ソファでゆったりとくつろぎ語り合う利用者の姿が見られたり、テーブルには雑誌が置かれたりと、思い思いの時間を過ごせる家庭的な雰囲気のある空間である。各ユニットの特徴に合わせ、テーブルやソファ等の配置を変える工夫も見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活空間を再現できるよう、本人と家族が相談して決めたものを制限なく持ち込んでいる。仕事で使用していたミシン、家族との写真が飾られている居室、使い込まれた机と椅子がおかれた居室など、個性ある居室作りがなされていた。また、窓が大きくとられ、明るく眺めもよい。		